

# 東芝インフラシステムズ株式会社 小向事業所 サイトレポート 2022

報告期間：2021 / 4 / 1 ~ 2022 / 3 / 31



## 東芝インフラシステムズ株式会社 小向事業所 事業所概要

所在地：神奈川県川崎市幸区小向東芝町1番地  
敷地面積：123,307㎡、建築面積：59,402㎡、緑化率11.8%  
設立年月：1937年12月  
従業員数：3,563人(2022年4月1日現在,含む常駐関係会社)  
主要製品：電波通信機器、マイクロ波半導体、自動化機器  
セキュリティシステム  
ISO14001認証取得：1996年10月、最新更新年月：2022年1月  
(ISO認証番号:EC99J2004)



■事業所全景

## ごあいさつ

東芝グループは、「豊かな価値の創造と地球との共生をめざした環境経営を通じて持続可能な社会の実現に貢献する」ことを目的とし、「東芝グループ環境未来ビジョン2050」を策定しました。私たち小向事業所は、このビジョンに基づき、環境に配慮した事業活動と環境調和型製品の創出の両面から、環境経営に取り組んでおります。「全ての事業活動が環境改善につながる」という認識を一人一人がもち、近隣地域に根ざしながら、持続可能な社会、すなわち脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現をめざし、貢献してまいります。



環境保全責任者  
鈴木正広

## 環境基本方針

東芝インフラシステムズ(株)小向事業所は、東芝グループ理念体系における「人と、地球の、明日のために。」の信念および東芝インフラシステムズ(株)のモットー「人に寄り添い、社会を支える。」のもと、環境への取り組みを経営の最重要課題の一つとして位置付け、豊かな価値の創造と地球との共生を図り、持続可能な開発目標であるSDGsの達成に貢献します。

そして、電波機器、電波応用機器、マイクロ波半導体、自動化機器、セキュリティシステム等を開発・製造するエレクトロニクス・システム工場として、環境に配慮した事業活動の推進と環境調和型製品の提供を通じ、近隣住宅地域との長年の信頼関係を継続しつつ社会に貢献することを目指します。

### 1. 事業活動全般を通じた環境活動に全員で取り組みます。

- (1) 環境パフォーマンスを向上させるため、監査の実施や活動レビューにより、環境保全システムの継続的な改善と向上を図ります。
- (2) ライフサイクルの視点をもって環境への影響を評価し、環境負荷の低減や汚染の予防などに関する環境目標を設定します。
- (3) 環境関連の法令・協定、当事業所が同意したその他の要求事項を遵守し、より厳しい自主基準値を設けて管理します。
- (4) 環境教育や啓発活動などを通じて、環境意識の向上に努めます。
- (5) 部品や材料のグリーン調達を推進すると共に、必要に応じて協力取引先などに指導・支援を行います。
- (6) 地域・社会との協調連帯を図り、積極的に情報を開示とコミュニケーションを行います。

### 2. 持続可能な社会(脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会)の実現に向けた取り組みを、推進します。

#### 気候変動への対応(脱炭素社会)

- (1) 温室効果ガス排出抑制に貢献する製品・システムおよびソリューションを創出・提供します。
- (2) エネルギーの効率的な利用により、温室効果ガスの排出を削減します。
- (3) 製品群を通じ、SBT(Science Based Target)認証目標達成に貢献します。

#### 循環経済への対応(循環型社会)

- (1) 廃棄物発生防止や削減、再利用などにより、廃棄物発生量を削減します。
- (2) 水受入量の削減により、水資源の有効利用を図ります。

#### 生態系への配慮(自然共生社会)

- (1) 化学物質管理や環境関連設備の改善等により、環境リスクを低減します。
- (2) 緑あふれる事業所を目指し、景観の改善と緑化に取り組みます。
- (3) 自然環境や生物多様性の保全に努めます。

2021年4月1日

東芝インフラシステムズ株式会社 小向事業所

鈴木正広

## 2021年度の環境の主な取り組み

### ★ISO14001環境マネジメントシステム

1996年10月に認証取得。2017年7月に東芝インフラシステムズ株式会社として統合認証を取得  
(2021年11月更新審査)

### ★環境調和型製品の創出

・環境調査型製品の創出  
ECP委員会(四半期毎)にて進捗確認、延べ年7回開催  
低CO<sub>2</sub>川崎ブランドに2件、川崎メカニズムに1件申請し、認定・認証を受ける

### ★CO<sub>2</sub>排出量の削減

・エネルギー起因CO<sub>2</sub>排出量  
生産高原単位 15.00t-CO<sub>2</sub>/億円  
(目標 18.45t-CO<sub>2</sub>/億円以下)

### ★環境負荷の低減

化学物質排出量の監視継続

### ★資源の有効活用

・廃棄物総発生量  
生産高原単位 0.63t/億円(目標 0.95t/億円以下)  
・水受入量  
生産高原単位 161t/億円(目標 288t/億円以下)

### ★管理体制の充実

法令、条例の順守

### ★教育・啓発

環境教育の計画的実施

### ★コミュニケーション

各種環境行事の実施(6月,10月,12月,2月)

### ★主要協力会社の指導支援

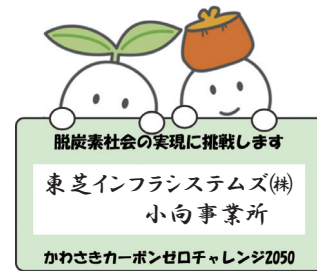
環境総点検3社実施(目標 3社)

## 脱炭素社会に向けての取組み

### 脱炭素戦略「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」への賛同

小向事業所は、川崎市の脱炭素戦略(かわさきカーボンゼロチャレンジ2050※)(策定：2020年11月12日)に賛同しました。2050年の脱炭素社会の実現を目指して、様々な活動を進めていきます。

※脱炭素化の取組のスタート地点として、2050年のCO<sub>2</sub>排出量実質100%削減の達成に向け、2030年マイルストーン(中間目標地点)や、基本的な考え方、先導的な取組などを示すもの。



### 「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド」および「川崎メカニズム認証制度」認定・認証

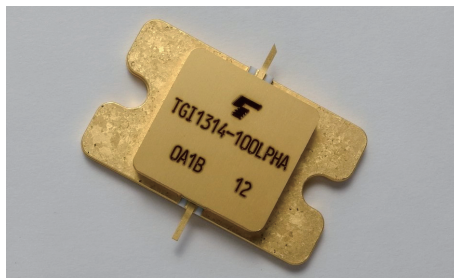
本制度は、川崎市内の企業が有する優れた環境技術によりCO<sub>2</sub>削減につながる製品・技術、サービスを認定・認証するものです。

当事業所も川崎市の「経済」と「環境」の調和と好循環を図る地球温暖化対策に賛同し、2013年度より毎年応募しています。2021年度は新型マイクロ波半導体「Ku帯 100W GaN HEMT(TGI1314-100シリーズ)」および「銀行券鑑査機(FS-2000)」の2製品で「低CO<sub>2</sub>川崎ブランド認定」を受け、9年連続での認定となりました。さらに「銀行券鑑査機(FS-2000)」については、製品・技術の温暖化防止の域外貢献※を評価する川崎メカニズム制度についても認証を受けました。

※域外貢献：市内企業の環境技術が、市域外で温室効果ガスの削減に貢献している量を「見える化」したもの



2022年2月4日に行われた認定式。左より、福田市長、小向事業所 石山副所長、西川部長、低CO<sub>2</sub>川崎ブランド等推進協議会 足立会長



高出力動作時でも歪みが低減できる技術の開発により、これまで50W級であったKu帯(12~18GHz帯)GaN HEMTの出力を100W級まで引き上げ、省エネ化・省資源化により、CO<sub>2</sub>排出量を従来50W製品2個分と比較して約5%削減



高効率デバイスの採用や最適制御による省エネルギー化、搬送パスの簡略化などのコンパクト設計により、旧製品と比較して、18%のCO<sub>2</sub>排出量を削減



### カーボンニュートラル都市ガス(CN都市ガス)の導入

CN都市ガスは、天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、新興国等における環境保全プロジェクトにより創出されたCO<sub>2</sub>クレジットで相殺すること(カーボンオフセット)により、地球規模ではこの天然ガスを使用してもCO<sub>2</sub>が発生しないとみなされるLNGを活用したものです。

(東京ガスHPより：<https://carbon-neutral-lng.jp/cnl-feature/>)

東芝グループは「CNL バイヤーズアライアンス」に加盟し、小向事業所では府中事業所を共に、同業他社に先駆けてカーボンニュートラル都市ガス(CN都市ガス)の導入を開始しました。2021年度は都市ガス全使用量をCNLに切替えております(※東芝インフラシステムズ(株)小向事業所及び構内東芝グループの使用量)。



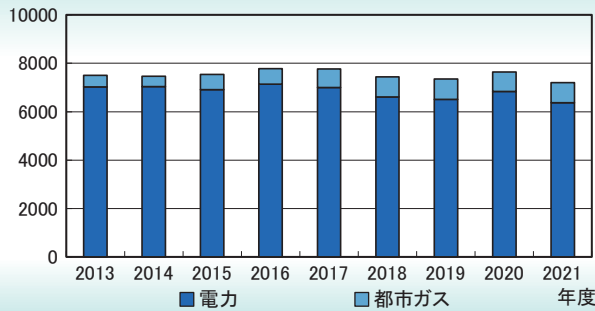
### 省エネ機器の採用

小向事業所では、照明のLED化や高効率な空調機の導入などにより、エネルギー消費量自体の削減にも取り組んでいます。2021年度は前年度比で約180万KWh/年の電気使用量を削減できました。

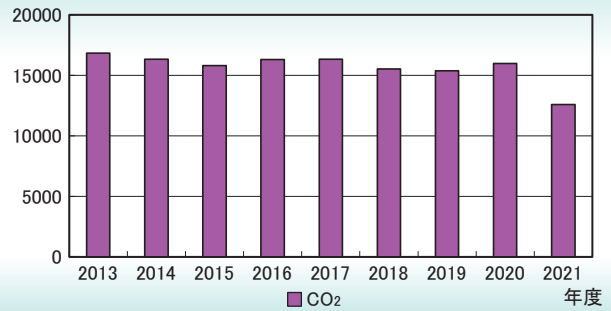


## 環境負荷データ

エネルギー使用量 (単位：kL)

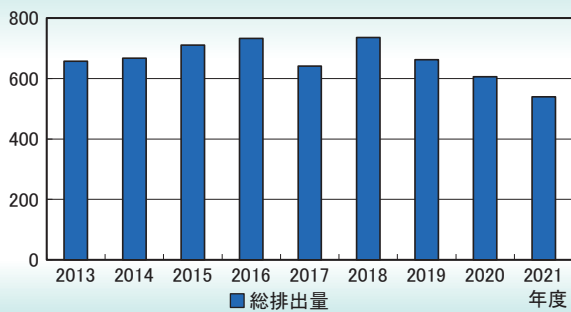


CO<sub>2</sub>排出量 (単位：t-CO<sub>2</sub>)

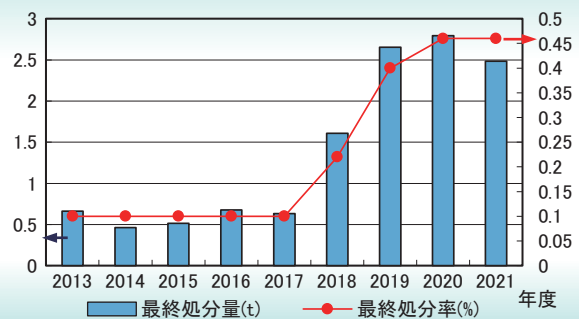


主な使用設備：ターボ冷凍機・チラー(空調)、ボイラー(空調)等

廃棄物総発生量 (単位：t)

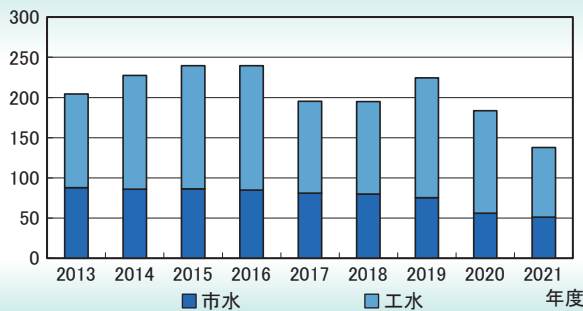


廃棄物最終処分量と最終処分率 (単位：t, %)

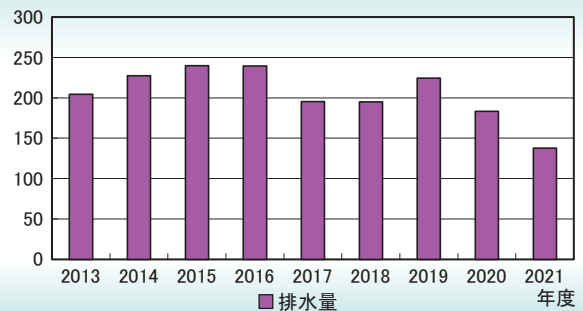


主な廃棄物名：汚泥、金属、廃プラスチック、廃油等 ※2018年より度薬品類の焼却処分増加のため最終処分率増加

水の使用量 (単位：km<sup>3</sup>)

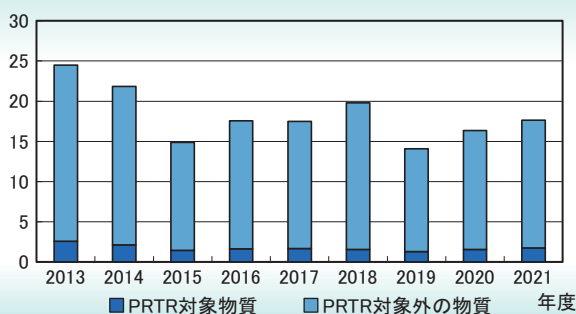


排水量 (単位：km<sup>3</sup>)

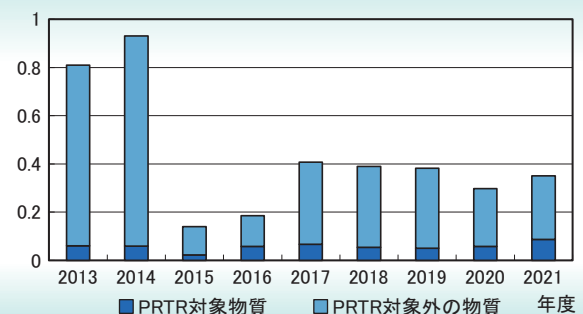


主な使用用途：生活排水、空調等

化学物質削減対象物質の取扱量 (t)



化学物質削減対象物質の排出量 (t)



主な化学物質：酢酸エチル、メチルアルコール、アセトン等

※対象物質：東芝グループ削減対象物質

## 順法管理状況

### <大気測定結果> 小型貫流ボイラー(都市ガス使用) 5台

	法規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
NOx (mg/1000kJ) 日規制	63	50	8.3 ~ 26.9	6回/年
SOx (mg/1000kJ) 日規制	対象外	対象外	<1 ~ <2	6回/年
ばいじん (mg/1000kJ)	50	5	<0.3 ~ <0.4	6回/年

### <排水測定結果> (下水道へ放流) \*規制値は川崎市条例基準

	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
水素イオン濃度(pH)	5.0 ~ 9.0	6.0 ~ 8.0	6.6 ~ 7.7	1回/月
BOD (mg/L)	600	120	<1.0 ~ 30.0	1回/月
SS (mg/L)	600	70	<1.0 ~ 320	1回/月
窒素 (mg/L)	240	35	0.3 ~ 12.0	1回/月
フッ素 (mg/L)	15	13	<0.5 ~ 2.1	1回/月

### <騒音・振動測定結果>

	測定場所:時間	規制値	自主管理値	実測値	測定頻度
騒音 (dB)	敷地境界:昼	70	70	42 ~ 55	6回/年
	敷地境界:夜	55	55	41 ~ 51	6回/年
振動 (dB)	敷地境界:昼	70	45	<30 ~ 37	6回/年
	敷地境界:夜	60	40	<30	6回/年

### <化学物質排出状況> 単位(t) (PRTR対象物質の排出状況です。取扱量1t以上が届出対象です)

物質番号	化学物質	取扱量	大気への排出	公共用水への排出	土壌への排出	事業所内埋立(安定型)	事業所内埋立(管理型)	事業所内埋立(遮断型)	排出量合計	廃棄物としての移動量	下水道への移動	移動量合計	消費量	除去処理量	リサイクル量
71	塩化第二鉄	1.3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1.3	0

### <環境事故・指導指摘・苦情の有無>

内容	環境事故発生の有無	工場周辺や地域での環境問題発生の有無	行政からの指導・指摘の有無	近隣住民からの苦情の有無
状況	なし	なし	なし	なし

## 環境コミュニケーションの紹介

2021年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のため集合イベントの開催等は中止して少人数での活動を中心に実施しました。

### <緑のカーテン>

2011年度から緑のカーテンの活動を始めました。2021年度は育成しやすいアサガオとフウセンカズラに加え、川崎市からいただいたゴーヤによる緑のカーテンを、従業員の目に触れやすい事業所正門付近に設置しました。事業所の緑のカーテンで育てたアサガオなどの種の近隣幼稚園への配付に加え、2021年度は事業所従業員にゴーヤ苗の配付を行い、緑のカーテンの輪を広げています。

(実施概要)

日時：2021年6月18日～11月25日



ゴーヤの苗 (5/26)



芽が出たアサガオ (7/8)



約3週間後、緑のカーテンが出来始めました。



### <近隣6町内会事業活動説明会>

事業活動と環境活動について理解を深めていただくことを目的として、毎年近隣6町内会の方々へ事業活動説明会を開催しています。2021年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため説明会は実施せず、事業活動説明資料と共に、サイトレポート及び緑のカーテンで採取したアサガオ、フウセンカズラの種などを近隣町内会に配付し、環境活動の紹介を行いました。

(実施日)

日時：2021年12月6日



## 生物多様性の保全への取り組み

### <構内自然観察>

2015年に蝶を呼び込むために府中事業所よりウマノズクサを移植し、2016年度より年間を通じて事業所内の動植物を観察し記録に残しています。これまでノアザミやクロアゲハを観察してきましたが、2021年度は、3年ぶりにジャコウアゲハの幼虫を観察することができました。また、構内に川崎市よりいただいた榊の苗を植樹しました。



ジャコウアゲハの幼虫 (5月観察)



ショウリョウバッタ (10月観察)



ハナニラ (3月観察)



榊の苗 (1月植樹)